

安吾と三千代

2021. 4月17日 土

8月22日 日



1948年頃 東京・蒲田

旧市長公舎

安吾 風の館

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町 5927 番地 9

■ 観覧 無料

■ 開館時間 10:00 ~ 16:00

主催 公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団
新潟市

TEL & FAX 025-222-3062

安吾と三千代

2021. 4月17日(土) — 8月22日(日)

坂口安吾(1906-55)が梶三千代(1923-94)と出会ったのは、新宿の酒場チトセであった。チトセは安吾の古い友人谷丹三の店で、妻房子と三千代は長唄を一緒に習う仲であった。房子に安吾を紹介された三千代は、初めは毎週水曜日に秘書として通う約束をするが、まもなく東京蒲田の安吾の家と一緒に暮らすようになる。安吾41歳、三千代24歳の時である。

「墮落論」「白痴」(1946年)で一躍流行作家となった安吾は、その後1955年群馬県桐生市で亡くなるまで意欲的に作品を発表していった。しかしアドルムの中毒や鬱病を発症し暴れる時もあり、三千代が著した『クラクラ日記』(1967年)には、壮絶な暮らしや日々の生活が銜いのない文章で綴られている。

「私くらいお前を愛してやれるものはいないよ。お前は今より人を愛することがあるかも知れないけれど、今よりも愛されることはないよ」(『クラクラ日記』)という安吾の言葉には、二人の深い絆を感じずにはられない。

三千代がモデルだという作品「青鬼の禪を洗ふ女」(1947年)や、釣りやゴルフ、愛犬ラモーなど、二人の8年間の日々を紹介する。

◇おもな展示作品

- 坂口安吾著 『青鬼の禪を洗ふ女』 1947年 山根書店
- 『愛と美』 1947年 朝日新聞社 (「青鬼の禪を洗ふ女」初出誌)
- 坂口三千代著 「安吾先生の一日」 1948年 『座談』 文藝春秋社
新潟市立中央図書館 所蔵
- 坂口三千代著 「クラクラ日記」 1957年～ 『酒』 酒之友社
新潟市立中央図書館 所蔵
- 坂口三千代著 『クラクラ日記』 1967年 文藝春秋社
- 遺言状
- 三千代への連絡メモ
- 遺愛品 ほか 約40点

【和室展示】

坂口綱男撮影 みち III

次回展覧会のご案内

第7回 旅 富山の薬と越後の毒消し

関連イベント 「安吾 風の館」見学と安吾ゆかりの地めぐり

日時：4/24(土)、5/22(土)、6/26(土)、7/24(土)

13:00～14:30

集合場所：安吾 風の館 参加費：500円 定員10名

申込方法：新潟・市民映画館シネ・ウインド (tel.025-243-5530) へ電話にて



バスのご案内 新潟駅万代ロバスターミナル 7番線から、または観光循環バス乗車「西大畑坂上」バス停下車徒歩3分

■開館時間 10:00～16:00

■観覧無料

■休館日 毎週月・火曜日 祝日または振替休日の場合はその翌開館日

旧市長公舎 安吾 風の館

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5927番地9 TEL & FAX 025-222-3062